

第87回 東京女子医科大学学会総会

The 87th Annual Meeting of the Society of Tokyo Women's Medical University



公開シンポジウム

私たちはCOVID-19パンデミックを
どのように乗り越えてきたのか？

総会〔書面開催〕

シンポジウム 13:15~15:30

座長（東京女子医科大学 医学部国際環境・熱帯医学 教授）杉下智彦

13:20
13:45

川名正敏（東京女子医科大学 総合内科学・総合診療科分野 特任教授）

東京女子医科大学病院としての対応

2020年1月末よりCOVID-19パンデミックに対する対応を病院全体として取り組んできた。院内感染対策予防には3月に結成された“チーム・コロナ”が中心となり、COVID-19診療は救命ICUチームと4月に結成されたCOVID-19 Task Forceの診療チームが担当している。いずれも診療科・部門や職種を超えてのチームであり、チームワークがしっかり発揮されたおかげで、多くの陽性患者を収容できたとともに、これまで院内クラスターを起こすことなく経過している。

13:45
14:10

石黒直子（東京女子医科大学 医学部長、皮膚科学講座 教授・基幹分野長）

COVID-19と学生教育

試行錯誤の2020年度を経て、感染対策を施した上での対面実習と対面と同等の効果をもつ配信講義による教育を実現した。今後は、学生支援委員による定期的なコミュニケーションと支援、LMS導入による講義の双方向性、即時性の充実などにより学修効果の向上を図り、COVID-19以前を超越した教育体制の構築に向かって発進したい。

14:10
14:35

大曲貴夫（国立国際医療研究センター 国際感染症センター長）

国立国際医療研究センターにおける経験

新型コロナウイルス感染症自体は全く新しい感染症であり、急性呼吸器感染症の一般的な概念からは大きく外れる振る舞いをみせた。医療対応は困難を極めた。同時に研究開発を進めねばならない状況もあった。当日は国立国際医療研究センターの新型コロナウイルス感染症についてその経験を共有したい。

14:35
15:00

坂元晴香（慶應義塾大学 医療政策・管理学教室 特任助教）

COVID-19と心とジェンダーへの影響

新型コロナウイルス感染症対策のために私たちは長期にわたり社会・経済活動の抑制を強いられている。結果、近年減少していた我が国における自殺者数が再び増加に転じた。特に増加が顕著なのが若年者と女性であるが、ここにはこれまでの日本社会が抱えてきたジェンダーの問題も深く関与している。強力な自殺対策、特に女性と若者への支援が早急に求められる。

15:00
15:25

押谷 仁（東北大学 大学院医学系研究科 微生物学分野 教授）

COVID-19への日本と世界の対応

COVID-19はパンデミックの状態となり、今もその被害は拡大し続けている。日本では欧米に比べて被害が少なく推移しているが、さまざまな対応の課題も明らかになってきている。COVID-19が短期的に収束する可能性は低く、さらに新たなパンデミックが起こるリスクも存在する。国内外の新興感染症への危機管理体制を抜本的に見直していくことが強く求められている。

2021年

9月25日 土曜日

13:10~15:30

オンライン開催

* ZoomウェビナーとYouTube Live
による同時配信

要申込 参加無料

* 申込期間 9月1日~9月15日

* 申込用Googleフォーム

<https://forms.gle/mS1Xs7ymBr5Csqfk8>

主催◇東京女子医科大学学会
事務局◇〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
東京女子医科大学 彌生記念教育棟1階図書館内 学会室
学会サイト◇<http://www.twmu.ac.jp/gakkai/>

